

2022年2月8日
株式会社ベネッセホールディングス
代表取締役社長 COO 小林 仁

ベネッセが品川区と読み書きの発達特性に配慮した ICT 学習の実証試験を実施

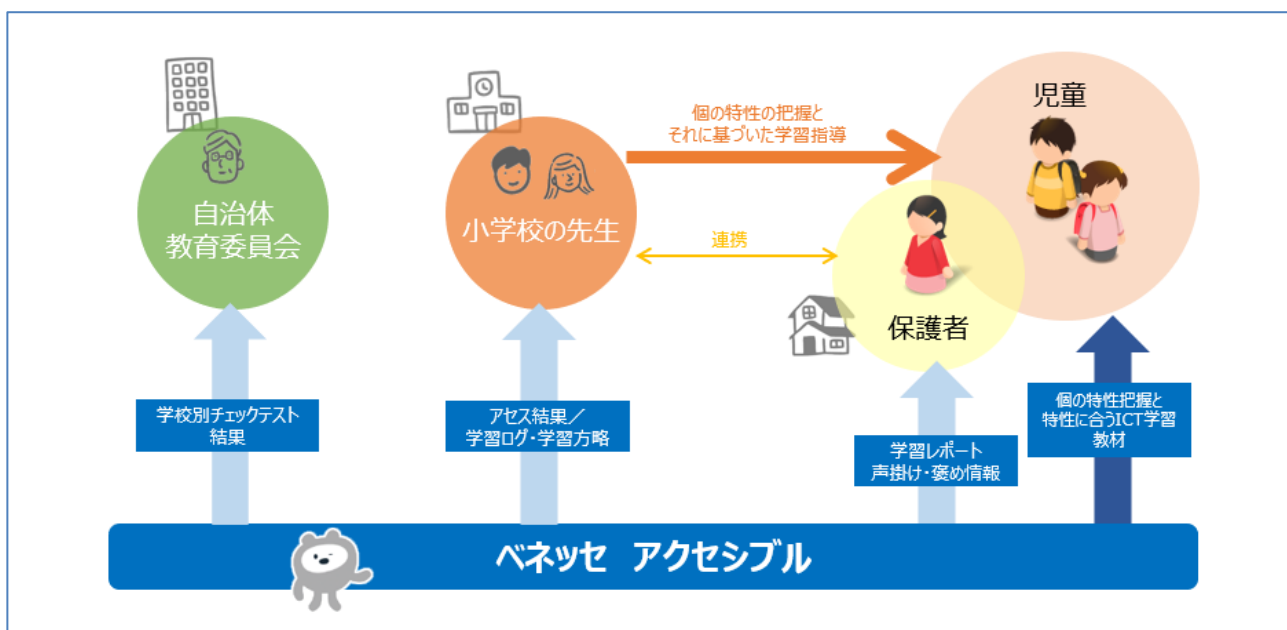
2021年9月～12月に、区内の公立小学校・義務教育学校11校にて、
発達障害児や読み書きに困りを抱える児童向け学習アプリを運用。今後は効果検証へ

株式会社ベネッセコーポレーション（本社：岡山県岡山市、代表取締役社長：小林 仁、以下：ベネッセ）は、東京都品川区と、区内公立小学校・義務教育学校11校にて、2021年9月2日（木）～2021年12月24日（金）の期間で、子どもの読み書きの発達特性に配慮したICT学習を活用した実証試験を行いました。

本取り組みは、対象校で通常学級を含めて読み書きに関する困りのチェックテストの一斉実施を行ったうえで、ベネッセで開発している発達障害児や読み書きに困りを抱える児童向け学習アプリを、各小学校と各児童のご家庭で任意にご利用頂くものです。

今後も、ベネッセで開発中の発達障害児向け学習アプリが、学校現場でより良い学習支援につながるように、品川区そのほかの自治体のご協力を得ながら、機能改善を目指します。また、小学校の児童の多様性を考慮して、このたびの取り組みに加えて、首都圏のみならず、さらに多くの児童についての効果検証していくことで、より良い学習支援につながることを目指していきます。

<今回の活動のイメージ>



【実証試験の概要】

○ 実証試験期間

2021年9月2日（木）～2021年12月24日（金）

※一部学校においては引き続きご利用継続

○ 実施校・学年・人数

品川区内の公立小学校・義務教育学校 37校中 11校

通常級2年生児童675名、特別支援教室1～4年生児童163名、特別支援学級1～4年生児童69名

○ 実証試験内容

ベネッセで開発している発達障害児や読み書きに困りを抱える児童向け学習アプリを、各小学校と、各児童のご家庭（任意）でご利用頂く。

- ・ 品川区から各児童に配布している1人1台デバイス（iPad）を利用
- ・ 学習アプリには、チェックテストとそれに合わせて最適化されたレッスンが含まれる
- ・ 児童向け学習アプリはWEBブラウザで作動するため、各児童のデバイスからご利用いただけるように設定。教師向け機能はWEBブラウザで作動するため、各学校のデバイスからアクセスできるように設定

【実証試験の背景とねらい】

現在、通常級に在籍する児童のうち、読み書きに困りを抱えているお子さんは6.5%(*注)とされ、さらに何らかのお困りを抱えるお子さんも合わせるとより多くいらっしゃるといわれています。また、学級運営と個への支援を両立することに悩む教員も多くいらっしゃると思われています。

こうした中、ベネッセでは、一人ひとりのお子さんの多様な特性に合わせることで、「学び」を支え、未来を切り開く力を伸ばすために、最新の発達研究に基づいた支援技術を活用したICT教材の研究開発を進めてまいりました。

今回の実証試験においては、品川区で各児童に配布されているiPadを用いながら、チェックテストによって見過ごされている読み書きにおける困りを抱える児童を早期に見つけ、さらにそのテスト結果の特性に基づいたレッスンを提供することで、それぞれの児童の読み書きスキルの向上や学習意欲の向上、指導者の労務負荷の軽減や指導効果の実感、そしてそれによって保護者含む多くの支援者の安心を醸成することを目指しています。

*注：知的発達に遅れはないものの学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒の割合(『通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について』平成24年12月5日 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課)


https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/_icsFiles/afieldfile/2012/12/10/1328729_01.pdf

【学習アプリを通して提供する個別教材のイメージ】

チェックテストを通して把握した児童個別の状況（「典型的な読み書き障害」「漢字の書きに困難を示す」）をもとに、児童の特性に応じた学習提案を行い、それに対応したデジタル教材を iPad に配信するものです。


例① 典型的な読み書き障害タイプのA児


レッスン A児の聴覚の苦手さをカバーすべく、イラストが多用された特殊音節・読みの流畅性に関するトレーニングを優先的に提示。



A児

▼ひらがなトレーニング「音のきごうクイズ」






この文字の大きさを組み合わせてみましょう。

かた

かひ

かど

かに




絵を見て正しいことばをえらびましょう。

こたえあわせ
パス
ヒント

▲ひらがなトレーニング「名前かくれんぼ」

例② 漢字の書きに困難を示すB児


レッスン B児の不注意傾向や集中維持の困難さに配慮し、1回のレッスン数は少なく調整可能。視覚の苦手さをカバーすべく継次処理での理解を促すトレーニングや、まずは漢字を無理に書かずに楽しく学べるトレーニングを優先的に提示。段階的に「書く」ことにも挑戦できるトレーニングを用意。



B児

▼漢字トレーニング「かんじおぼえうた」


かきじゆん



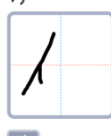
もういっかいみる

いたは、木とよこぼう
ノよこはらい。


▼出題前のレッスン数調整



▼漢字トレーニング「ぶひんさがし」



▼漢字トレーニング「絵とセットでおぼえよう」



※なお、本プレスリリースは、デジタル教科書のためのユニバーサルデザイン書体「UD デジタル教科書体」を使用しております。

【自治体向けモニター募集のご案内】

○ モニターで利用する学習アプリ

読み書きの発達特性に合わせた児童向け学習アプリ「MARUG Land」(マルグランド)

※ご提供教材は小1-4の範囲の「読み」「書き」「読解」となります。

○ モニター期間

2022年4月1日～7月末を想定(要ご相談)

○ 対象児童

通常級、通級指導教室、特別支援学級在籍の1～3年生

※GIGA標準仕様のタブレットで利用可能。Webブラウザでアクセス可能で、インストール等は不要です。

○ 利用お申込み

まずは教育委員会様より、accessible@mail.benesse.co.jpへメールにてご相談ください。

※本モニターは2023年度有償導入を見据え、導入可否のご判断をいただくことを前提としたモニター募集となります。(1自治体当たり1～2校を想定しております)。モニター数に上限があり、ご相談頂いた後にモニター実施いただけない場合もありますことをご了承ください。

<教材の特長>

1. 発達特性に合わせた調整機能:

児童の学習意欲を削がないよう、問題文の読み上げ機能や問題の分量・難易度など、学年を意識することなく、特性に合わせた学習環境の調整ができます。

2. チェックテストから学習内容を自動オススメ:

まずは児童の認知特性、読み書きの困りをチェックテストで確認。豊富な読み書きトレーニングから、最もお子さまに合っている「学び方」を自動提案します。

3. 児童の取り組みを客観データとして共有可能:

チェックテスト結果からの児童の特性・指導方針に加え、取組状況などを見ることができます。学習状況を学校の先生方や保護者と共有することで、共通認識ができたり、褒め励ましによってお子さまの自己肯定感を育んだりします。